

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「フランクリン・templton 米国政府証券ファンド（愛称：メイフラワー号）」は2023年3月15日に第251期の決算を行いました。当ファンドは、フランクリン・templton 米国政府証券マザーファンドへの投資を通じて、フランクリン・templton・グループが運用する複数の外国籍ファンドに投資することにより、実質的に米国ジニーメイ・パス・スルー証券等の米国高格付け証券に投資を行います。当作成期におきましても、それに沿った運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

フランクリン・templton・ジャパン株式会社（金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第417号）はフランクリン・リソーシズ・インク傘下の資産運用会社です。

第251期末（2023年3月15日）	
基準価額	7,819円
純資産総額	14,765百万円
第246期～第251期	
騰落率	△ 6.3%
分配金（税込み）合計	54円

（注）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

（注）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

フランクリン・templton 米国政府証券ファンド （愛称：メイフラワー号）

追加型投信／海外／債券

交付運用報告書

第246期（決算日2022年10月17日）
第247期（決算日2022年11月15日）
第248期（決算日2022年12月15日）
第249期（決算日2023年1月16日）
第250期（決算日2023年2月15日）
第251期（決算日2023年3月15日）

作成対象期間：2022年9月16日～2023年3月15日



FRANKLIN
TEMPLETON

フランクリン・templton・ジャパン株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

<お問い合わせ先>

電話番号：03-5219-5947
（営業日の9:00～17:00）

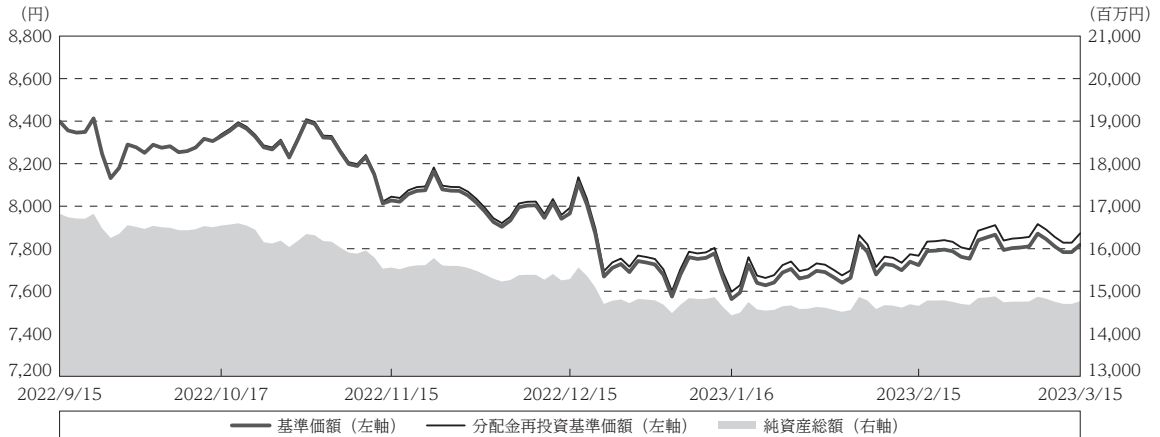
ホームページ：https://www.franklintempleton.co.jp
お客様の口座内容などに関するお問い合わせは、お申込みされた販売会社までお願い申し上げます。

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。上記<お問い合わせ先>ホームページの「ファンド一覧」から当ファンドのファンド名称を選択することにより、当ファンドの詳細ページにおいて「資料・レポート」の中から運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付を請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2022年9月16日～2023年3月15日)



第246期首：8,399円

第251期末：7,819円 (既払分配金(税込み):54円)

騰落率：△ 6.3% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2022年9月15日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドがマザーファンドを通じて投資を行う投資対象ファンドは、特定のベンチマークを上回ることを目指して運用するものではありません。したがって、当ファンドもベンチマークを設定していません。

○基準価額の主な変動要因

「フランクリン・テンプルトン 米国政府証券マザーファンド」(以下、「マザーファンド」)を通じて投資した投資対象ファンドの分配金再投資基準価額はほぼ横ばいでした。一方、米ドルが対円で下落した結果、当ファンドの分配金再投資基準価額は下落しました。詳しくは後掲の「**■投資環境**」をご参照ください。

なお、投資対象ファンドの主な変動要因は以下の通りです。

- ・投資を行っている米国高格付け証券(ジニーメイ・パス・スルー証券等)からのインカム
- ・投資を行っている米国高格付け証券(ジニーメイ・パス・スルー証券等)の価格変動

1万口当たりの費用明細

(2022年9月16日～2023年3月15日)

項 目	第246期～第251期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	30	0.382	(a) 信託報酬 = [作成期間の平均基準価額] × 信託報酬率
(投 信 会 社)	(11)	(0.142)	ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、開示資料作成等の対価
(販 売 会 社)	(17)	(0.218)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.022)	ファンドの運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.004	(b) その他費用 = $\frac{[\text{作成期間のその他費用}]}{[\text{作成期間の平均受益権口数}]}$
(保 管 費 用)	(0)	(0.000)	その他費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・その他は、金銭信託預入に係る手数料等
合 計	30	0.386	
作成期間の平均基準価額は、7,985円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。各項目の費用は、マザーファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。
当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」等が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要<ご参考>」に表示しております。

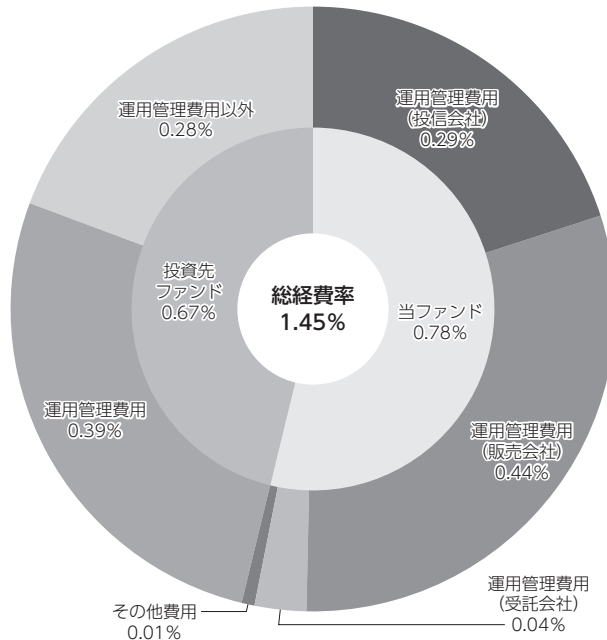
(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.45%です。



(単位:%)

総経費率(①+②+③)	1.45
①当ファンドの費用の比率	0.78
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.39
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.28

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドのマザーファンドが組入れている投資信託証券です。

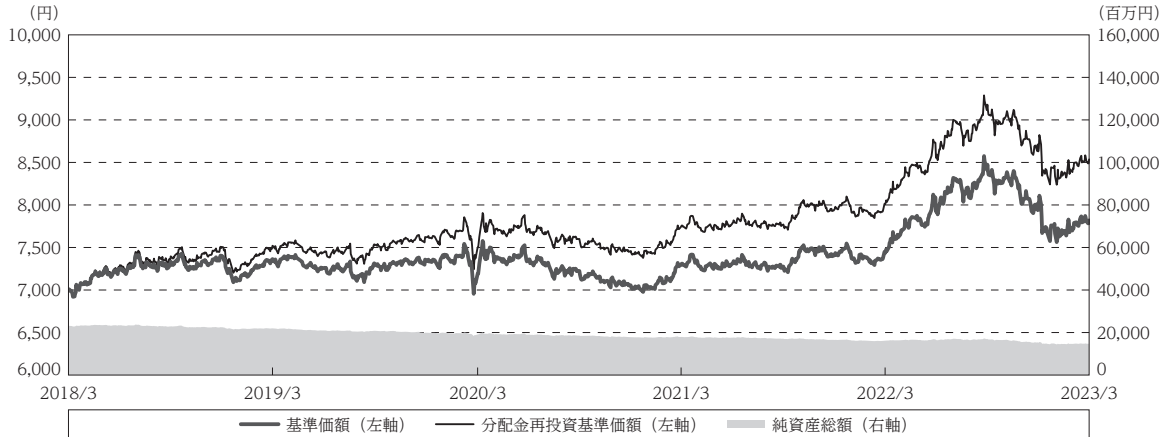
(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2018年3月15日～2023年3月15日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2018年3月15日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2018年3月15日 決算日	2019年3月15日 決算日	2020年3月16日 決算日	2021年3月15日 決算日	2022年3月15日 決算日	2023年3月15日 決算日
基準価額 (円)	6,994	7,364	7,189	7,297	7,435	7,819
期間分配金合計(税込み) (円)	—	153	156	124	108	108
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	7.5	△ 0.3	3.3	3.4	6.6
純資産総額 (百万円)	23,119	21,971	19,087	17,920	16,152	14,765

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、フランクリン・テンプルトン・グループが運用する複数の外国籍ファンドに投資します。ファンドの収益率を測る適切なインデックスが存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境

(2022年9月16日～2023年3月15日)

(米国金利とジニーメイ・パス・スルー証券市場)

米国債券市場では、利回りは上昇（価格は下落）しました。

期の前半は、米連邦準備制度理事会（F R B）が利上げを継続し、積極的な金融引き締めが見込まれる中、利回りは上昇しました。

期の半ばは、F R Bによる急速な金融引き締めによる景気への影響が懸念されるなかで、パウエル F R B 議長が講演で利上げ幅の縮小を示唆したことなどをうけて、利回りは一時低下（価格は上昇）しました。しかし、その後は2022年12月開催の米連邦公開市場委員会（F O M C）の結果を受けて、利回りは上昇に転じました。F O M Cでは、政策金利の引き上げ幅は従来の0.75%から0.5%に縮小されたものの、公表された2023年の政策金利の見通しが想定以上にタカ派的であったことから、利上げ継続観測が市場で強まりました。

期の後半は、欧州でインフレピークアウトの観測から欧州中央銀行（E C B）が利上げペースを緩めるとの見方が広がったことや、米国の弱めの経済統計発表をうけて、債券利回りは低下しました。しかし、その後は、雇用統計、消費者物価指数（C P I）などの経済統計が市場予想を上回ったことなどから利上げへの停止期待が後退し、利回りは上昇しました。ただし、2023年3月に米銀破綻の発表を受けて安全資産である米国国債が買われたことで、当作成期末にかけて利回りは低下しました。

当作成期、ジニーメイ・パス・スルー証券の利回りは上昇しました。住宅ローン金利の主要な指標金利のひとつであるフレディマック30年（固定）金利は上昇しました。一方、住宅ローンの借り換え指数は低下しました。

(外国為替市場)

当作成期の米ドル・円相場は、米ドル安・円高となりました。

期の前半は、F R Bが積極的な利上げを続けるとの見方が根強い中、米ドル買い・円売りが進みました。その後は、F R Bが利上げペースを緩めるとの観測が浮上したことなどから、米ドル売り・円買いが優勢となりました。

期の半ばは、日銀が長短金利操作（イールドカーブ・コントロール＝Y C C）で長期金利の上限引き上げを決定したことを受けて、日銀の大規模な金融緩和策が修正され、日米金利差が縮小するとの思惑が浮上したことなどから、米ドル売り・円買いが強まりました。

期の後半は、日銀による金融緩和策修正の思惑が後退したことなどから、米ドル買い・円売りが次第に優勢となりました。さらに、F R Bが利上げを続けるとの見方が改めて意識されたことなどから、米ドル買い・円売り優勢の展開が続きました。ただし、当作成期末にかけては米銀の破綻を受けて投資家のリスク回避姿勢が強まると、米ドル売り・円買いが進みました。

当ファンドのポートフォリオ

(2022年9月16日～2023年3月15日)

(フランクリン・テンプレトン 米国政府証券ファンド (愛称:メイフラワー号))

運用の基本方針にもとづき、フランクリン・テンプレトン 米国政府証券マザーファンドへの投資を通じて、「フランクリン・テンプレトン U.S.ガバメント・セキュリティーズⅡ・ファンド (バミューダ籍投資法人)」および「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズ-フランクリン U.S.ガバメント・ファンド (ルクセンブルク籍投資法人)」に投資を行いました。

当ファンドでは、当作成期を通じてマザーファンドの組入れを高位に維持しました。マザーファンドにおける当作成期末の投資対象ファンドの組入比率は、「フランクリン・テンプレトン U.S.ガバメント・セキュリティーズⅡ・ファンド (バミューダ籍投資法人)」が約7割、「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズ-フランクリン U.S.ガバメント・ファンド (ルクセンブルク籍投資法人)」が約3割となりました。

(フランクリン・テンプレトン 米国政府証券マザーファンドの投資対象ファンド)

当作成期も、独自の分析手法を用いて、証券価格が割安に推移していると判断されるジニーメイ・パス・スルー証券に着目して、慎重な運用を行いました。組入銘柄の選定においては担保資産の分析に加え、期限前償還リスクを考慮し、相対的に魅力ある証券を組み入れました。クーポン別では、2.0%～4.0%のクーポンを持つ証券を中心に組み入れました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2022年9月16日～2023年3月15日)

当ファンドはベンチマークや参考指数を設けていないため、本項目は記載しておりません。

分配金

(2022年9月16日～2023年3月15日)

当ファンドは、当作成期中の毎決算時に配当等収益を中心に以下の収益分配を行いました。

なお、留保された収益の運用につきましては、特に制限を設けず元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第246期	第247期	第248期	第249期	第250期	第251期
	2022年9月16日～ 2022年10月17日	2022年10月18日～ 2022年11月15日	2022年11月16日～ 2022年12月15日	2022年12月16日～ 2023年1月16日	2023年1月17日～ 2023年2月15日	2023年2月16日～ 2023年3月15日
当期分配金	9	9	9	9	9	9
(対基準価額比率)	0.108%	0.112%	0.113%	0.119%	0.116%	0.115%
当期の収益	9	9	9	9	9	9
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	882	888	894	899	909	919

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(フランクリン・テンプレトン 米国政府証券ファンド (愛称：メイフラワー号))

当ファンドは、「運用の基本方針」に基づき、引き続きフランクリン・テンプレトン 米国政府証券マザーファンドへの投資を通じて、主に「フランクリン・テンプレトン U.S.ガバメント・セキュリティーズⅡ・ファンド (バミューダ籍投資法人)」、「フランクリン・テンプレトン・インベストメント・ファンズ-フランクリン U.S.ガバメント・ファンド (ルクセンブルク籍投資法人)」に投資を行う方針です。「フランクリン U.S.ガバメント・セキュリティーズ・ファンド (米国籍投資法人)」への配分は分配金水準や資金フローなどを総合的に勘案して判断する予定です。

(フランクリン・テンプレトン 米国政府証券マザーファンドの投資対象ファンド)

「各国の中央銀行は現在のインフレを一時的な異常事態に過ぎないと結論付けるであろう」との期待が、市場における利上げ打ち止め観測の背景にあると考えます。しかし運用チームでは、多くの要因から、FRBは高いインフレが定着するリスクについてより神経質になっていると思われます。FRBは長く続いた金融緩和が、複数年にわたる制御が難しいインフレを招いたことを認識しています。FRBによる資産価格安定のためのセーフティネット不在のリスクがどれほどのものか投資家がわかりはじめていなかで、市場の不安定さが増してきていると考えます。

ジニーメイ・パス・スルー証券は米国政府が元利金の期日通りの支払いを保証する住宅ローン担保証券であり、実質的に米国国債と同等の信用力を有すると考えられています。上記の投資環境の下において、より有利な投資機会の発掘のために同証券を構成する住宅ローンに対する精査を徹底してまいります。慎重かつ規律正しい投資アプローチにより、期限前償還リスクを適切に評価し、投資対象証券の本来の価値と市場価値とのかい離を特定することで、より投資妙味のある証券への投資を行う方針です。

お知らせ

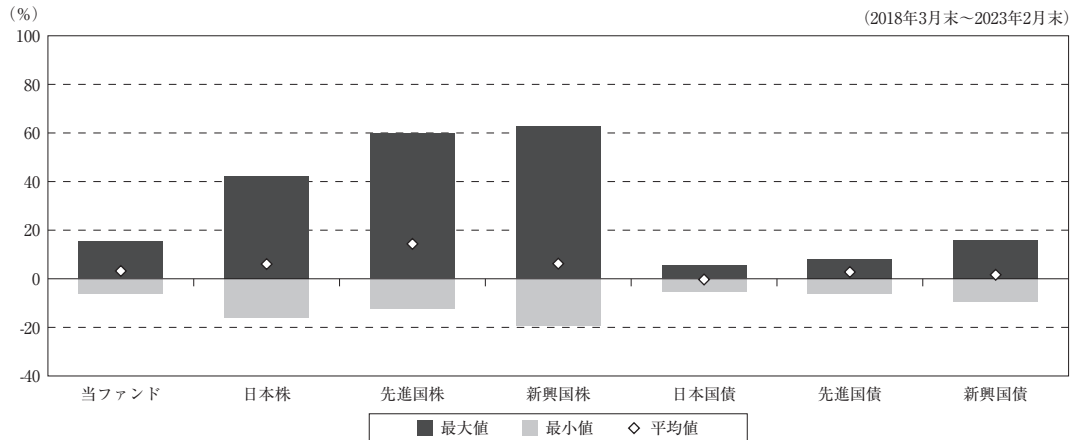
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	信託財産の着実な成長と安定的な収益確保を図ることを目指してファンド・オブ・ファンズ形式で運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	フランクリン・templton 米国政府証券マザーファンド受益証券
	フランクリン・templton 米国政府証券マザーファンド	<ul style="list-style-type: none"> ・フランクリン U.S.ガバメント・セキュリティーズ・ファンド (米国籍投資法人) ・フランクリン・templton・インベストメント・ファンズーフランクリン U.S.ガバメント・ファンド (ルクセンブルク籍投資法人) ・フランクリン・templton U.S.ガバメント・セキュリティーズII・ファンド (バミューダ籍投資法人)
運用方法	主としてフランクリン・templton 米国政府証券マザーファンド受益証券への投資を通じて、米国ジニーメイ・パス・スルー証券（政府抵当金庫パス・スルー証券）等の米国高格付け証券に実質的な投資を行います。フランクリン・templton 米国政府証券マザーファンド受益証券の組入れは高位を維持することを基本とします。	
分配方針	毎月15日（ただし、15日が休業日のときは翌営業日とします。）に決算を行い、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②分配金額は、委託者が配当等収益を中心に基準価額水準等を勘案して決定します。 ③留保益の運用については特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	15.5	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	15.7
最小値	△ 6.2	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 9.4
平均値	3.2	6.1	14.4	6.2	△ 0.3	2.8	1.6

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年3月から2023年2月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(※) 各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

○代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLC に帰属します。

JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2023年3月15日現在)

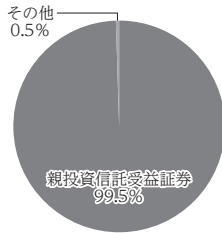
○組入上位ファンド

銘 柄 名	第251期末
	%
フランクリン・templton 米国政府証券マザーファンド	99.5
組入銘柄数	1銘柄

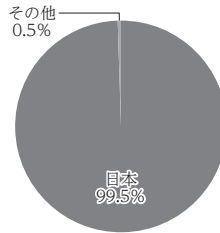
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

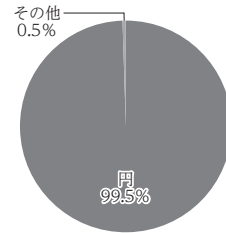
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

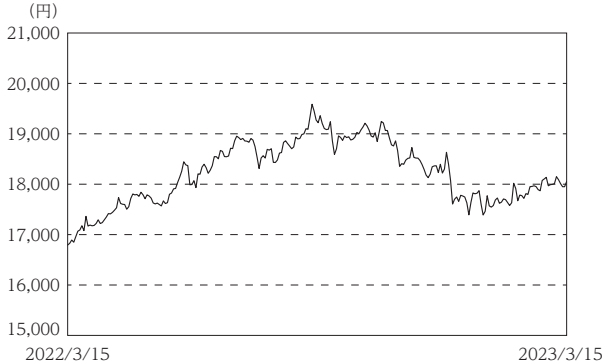
項 目	第246期末	第247期末	第248期末	第249期末	第250期末	第251期末
	2022年10月17日	2022年11月15日	2022年12月15日	2023年1月16日	2023年2月15日	2023年3月15日
純 資 産 総 額	16,546,125,200円	15,558,800,066円	15,285,182,458円	14,435,913,214円	14,656,856,252円	14,765,290,330円
受 益 権 総 口 数	19,865,605,646口	19,382,714,968口	19,188,946,607口	19,088,770,088口	18,978,479,557口	18,883,494,903口
1万口当たり基準価額	8,329円	8,027円	7,966円	7,563円	7,723円	7,819円

(注) 当作成期間(第246期~第251期)中における追加設定元本額は137,601,685円、同解約元本額は1,289,243,123円です。

組入上位ファンドの概要

フランクリン・テンプルトン 米国政府証券マザーファンド (2022年3月16日～2023年3月15日)

○基準価額の推移



○1万口当たりの費用明細

(2022年3月16日～2023年3月15日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (保管費用)	0 (0)	0.001 (0.001)
合計	0	0.001

期中の平均基準価額は、18,241円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○組入上位ファンド

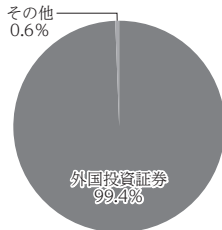
(2023年3月15日現在)

銘柄名	第21期末
フランクリン・テンプルトン U.S.ガバメント・セキュリティーズII・ファンド	67.9%
フランクリン・テンプルトン・インベストメント・ファンズーフランクリン U.S.ガバメント・ファンド	31.5%
組入銘柄数	2銘柄

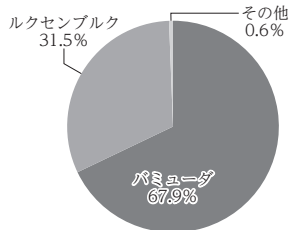
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

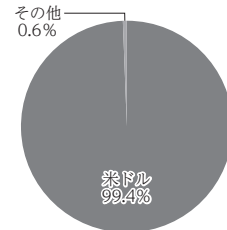
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

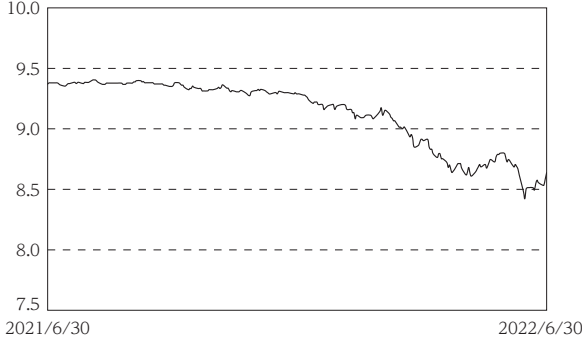
(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

<ご参考> フランクリン・テンプルトン・インベストメント・ファンズ-フランクリン U.S.ガバメント・ファンド
(2021年7月1日~2022年6月30日)

○基準価額の推移

(米ドル)



(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) USDの分配金再投資基準価額です。

○費用の明細

(2021年7月1日~2022年6月30日)

運用報酬	0.40%
管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.19%
合計	0.59%

(注) 当ファンドが投資対象とするClass I (Mdis) USDの数値です。
(注) 1万口当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。

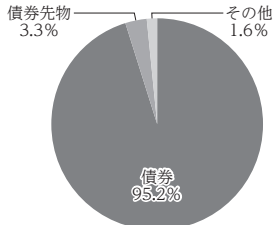
○上位10銘柄

(2022年6月30日現在)

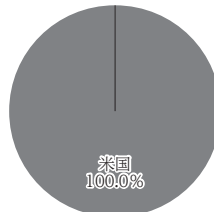
銘柄名	比率 %
GNMA MA4719 3.5% 09/20/2047	9.6
GNMA 2.5% 08/20/2051	6.8
GNMA MA6709 2.5% 06/20/2050	6.1
GNMA 2% 08/20/2051	5.2
GNMA 2.5% 10/20/2051	4.8
GNMA 3% 09/20/2051	4.6
GNMA 785211 5% 08/15/2040	3.9
GNMA 2.5% 07/20/2051	3.7
GNMA MA2302 3% 10/20/2044	3.2
GNMA MA4837 3.5% 11/20/2047	2.9
組入銘柄数	650銘柄

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。
(注) 組入上位銘柄および銘柄数は、当該投資対象ファンドの入手可能な Audited Annual Report を基に作成しております。
(注) 組入銘柄数には先物を含みます。

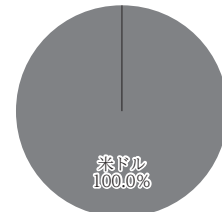
○資産別配分



○国別配分



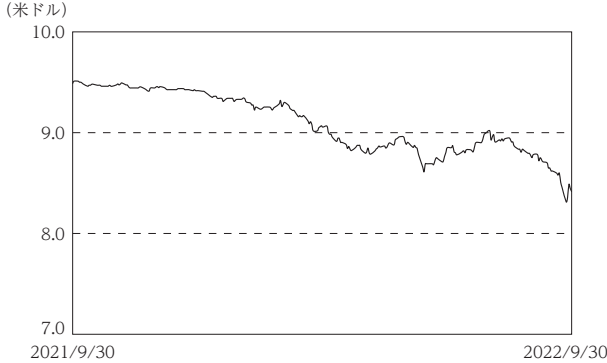
○通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2022年6月30日現在のものです。
(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
(注) 先物の比率は絶対値ベースで記載しております。

<ご参考> フランクリン・テンプルトン U.S.ガバメント・セキュリティーズⅡ・ファンド
(2021年10月1日～2022年9月30日)

○基準価額の推移



(注) 分配金再投資基準価額です。

○上位10銘柄

(2022年9月30日現在)

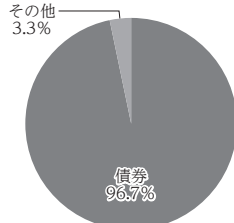
銘柄名	比率
	%
GNMA II, Single-family, 30 Year, 2.5%, 1/20/52	7.0
GNMA II, Single-family, 30 Year, 3%, 11/20/51	4.3
GNMA II, Single-family, 30 Year, 3%, 10/20/51	4.2
GNMA II, Single-family, 30 Year, 3.5%, 9/20/47	4.1
GNMA II, Single-family, 30 Year, 3.5%, 11/20/47	3.6
GNMA II, Single-family, 30 Year, 2%, 8/20/51	3.4
GNMA II, Single-family, 30 Year, 2.5%, 7/20/51	3.3
GNMA I, Single-family, 30 Year, 5.5%, 1/15/32 - 6/15/34	3.3
GNMA II, Single-family, 30 Year, 3%, 12/20/51	3.2
GNMA II, Single-family, 30 Year, 2.5%, 10/20/51	2.8
組入銘柄数	86銘柄

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

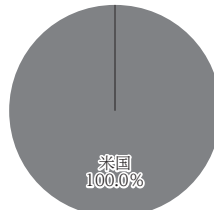
(注) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 組入上位銘柄および銘柄数は、当該投資対象ファンドの入手可能な Financial Statements を基に作成しており、クーポンや償還日によって集約されているものがあります。

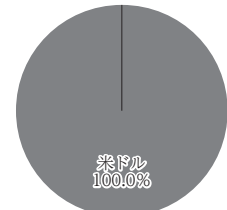
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分のデータは2022年9月30日現在のものです。

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

○費用の明細

(2021年10月1日～2022年9月30日)

運用報酬	0.40%
管理会社報酬、保管銀行報酬、監査費用等	0.32%
合計	0.72%

(注) 1万口当たりの費用明細に代えて、当期間における各費用の平均純資産総額に対する比率を記載したものです。



FRANKLIN TEMPLETON

フランクリン・テンプレトンは、創業以来
ベンジャミン・フランクリンの肖像画をロゴマークとしております。
創業者ルーパート・H・ジョンソン Sr. は、
“With money and financial planning, prudence comes first.”
(お金を増やそうとするときに一番大切なのは、用心深さである。)
というベンジャミン・フランクリンのビジネス哲学に深く感銘し、
アメリカ建国の父でもあり、偉大な科学者、
そして優れた投資家でもあった彼の名を社名に冠しました。
ベンジャミン・フランクリンの肖像画を用いたロゴマークは、
ご投資家の皆様にとって、
フランクリン・テンプレトンの資産運用サービスに対する
信頼と安心の象徴となっております。